

## 第4章 歌碑・文学碑 ～歌・文に託す想い～

### 1 加賀大介歌碑(福島町) 平成元年建立

「雲はわき 光あふれて」で始まる全国高校野球大会の大会歌「栄冠は君に輝く」は、大正3年(1914)に根上村濁池で生まれた加賀大介の作詞によるもので、昭和23年(1948)に朝日新聞社が募集した大会歌に応募し、5,252編の中から第1位に選ばれました。作曲は令和2年(2020)のNHK連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルになった古関裕而です。



### 2 来首の墓(寺井町)

宝暦から文化年間(1751～1818)にかけて、寺井地方の俳壇に既白・竜石・来首の親子がいました。既白三男の来首は夏炉庵と号し、俳人・郷土史家として活躍し、その著書『寝覚めの蛭』は当時の記録として貴重な史料です。

この墓は、来首の義弟で加賀藩本多家侍医の鈴木柳崖によって、寺井山に建てられていたものを、能美ふるさとミュージアムの敷地に移したものです。

### 3 既白句碑(寺井町)

既白は、元は石川清兵衛の名で、宝暦(1751～1764)のはじめ、加賀藩検見役として寺井に赴任しました。御役御免後、観音山(寺井山)の生国寺の寺侍となりました。その後、俳諧の道にすすみ、松尾芭蕉に心酔して全国各地を吟遊しました。三男の来首と共に、寺井俳壇の草分けといわれています。



### 4 俳人既白句碑(辰口町) 昭和43年建立

「臭湯津の 澱靄たちて 杜若」  
(くさゆづの おりもやたちて かきつばた)

辰口福祉会館の正面口左に建つ句碑は、明治頃のものといわれています。「釜谷川の辺にて」とあるように、薬師山の下の湯屋の旧道の脇にありました。



### 5 泉鏡花文学碑(辰口町) 平成3年建立

明治の文豪泉鏡花は金沢で生まれましたが、幼くして母を亡くし、辰口に住む叔母中田千代のもとを訪れることが多々ありました。明治23年(1890)に叔母の家で読んだ尾崎紅葉『夏草』によって、小説家意欲を燃やしました。銅像は、辰口温泉を舞台にした『海の鳴る時』を題材にして、金沢大学教授米林勝次氏が製作・寄贈したものです。

### 6 谷口善太郎文学碑(和気町)

大きな自然石に「守道不封己」、その左に小説『綿』の冒頭部分「白山山岳地帯へ加賀平野の東端が所々で芋虫のように食い込んでいた。その芋虫の一つにわたしの生まれた部落があった」が刻まれています。明治32年(1899)和気に生まれ、製陶所の徒弟となり、大正10年(1921)京都で清水焼に従事、京都陶磁器従業員組合を結成しました。戦後は国会議員として活躍しました。碑に刻んだ「守道不封己(道を守って己れをあつくせず)」は、氏の座右の銘で思想・信条をこえて、京都府の皆さんから「谷善さん」と呼ばれ親しまれた氏が、故郷のわれわれに残されたメッセージです。



### 7 花菖蒲塚(辰口町) 平成4年建立

「花菖蒲 ふみ継ぐ出湯に 香りはゆ」

宮竹の雲戸喜代氏は、大正14年(1925)生まれで、昭和から平成にかけて結社「蟻の塔」に所属し、作句の後進指導に功績を残し、「名誉同人」の称号を受けました。



### 8 暁烏敏師歌碑(辰口町) 平成21年建立

「十億の人に十億の母あらむも わが母にまさる母ありなむや」

辰口福社会館の登り口に建ち、福社会館は昭和53年(1978)に薬師山に建てられたものですが、住民が湯を楽しみ、仏壇も設置された安らぎの間として親しまれてきました。聴聞の場としての役目を終えると、これまでの利用を感謝して建立されました。

## 9 即得寺句碑(寺井町)

「一人来て 二人で帰る 月の道」

この句の元とみられる次の歌から引用したものでしょうか。寺の句碑にふさわしいようです。「一人来て 二人帰るぞ うれしけれ 南無阿弥陀佛を道づれにして」(詠み人知らず)



## 10 伝統と創造(国民文化祭) (大成町) 平成4年建立

## 11 NHK学園川柳根上大会・第1～4回(大成町) 平成8年建立

## 12 NHK学園川柳根上大会・第5～8回(大成町) 平成12年建立

## 13 NHK学園川柳根上大会・第9～12回(大成町) 平成16年建立

平成4年(1992)の第7回国民文化祭にあたり、根上町では川柳大会や児童絵画展を開催しました。国内外から多くの参加を得て交流の輪を広げたことを記念して、創造性豊かで文化的な活力ある街づくりを目指すことを誓ったものです。

それ以降は「NHK学園」として、川柳大会を行いました。



14 川柳根上大会受賞記念(大成町)

「生きてたくて ひとよりひくく 傘をさす」 聖夜

15 大成八幡神社歌碑(大成町)

「白霊山 しづれ若水 肝洗う」 一石

16 高坂公園句碑(高坂・根上町)

「西海に 魂鎮もれり 雲の峰」 梅乃



17 森茂喜奉納歌碑(下ノ江町) 昭和57年建立

新古今集神詠歌「ありきつゝ 来つゝ見れども いさぎよき  
人の心を われ忘れめや」

新古今和歌集 卷第十九 神祇歌による石清水八幡宮の神詠と  
して載せられています。これまでの長い人生行路を見続けてきた  
けれども、潔白な人の心を私が忘れるはずがない、という気持ち  
を詠んだものです。石碑の文字は森氏の自筆です。

